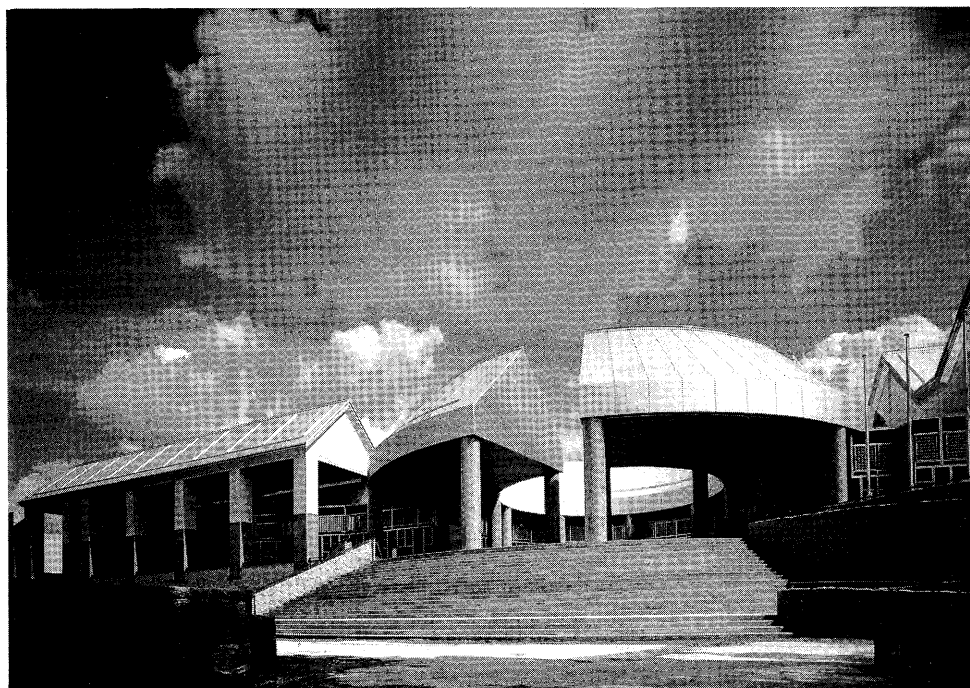


広島市現代美術館

所在地：広島県広島市南区比治山公園1-1

設置：広島市

運営：財団法人広島市文化振興事業団



■館の概要

市制施行100周年・広島城築城400年を記念し、また、被爆都市広島戦後の戦後を現代美術を通して問い続けることを意図して1989年に開館した。公立の現代美術館としては先駆けとなった美術館。作品の収集方針としては、第二次世界大戦以降の現代美術の流れを示すのに重要な作品、ヒロシマと現代美術の関連を示す優れた作品、将来性ある若手作家の優れた作品、の3点を掲げて国内外の作品の収集に努めているとしている。年3回の常設展示替え、年に6回程度の特別展を行っている。また講演会、講座、パフォーマンス、コンサートなどの教育普及活動にも力を入れている。収蔵品は608点。

■情報システムの概要

1. 収蔵品管理システム

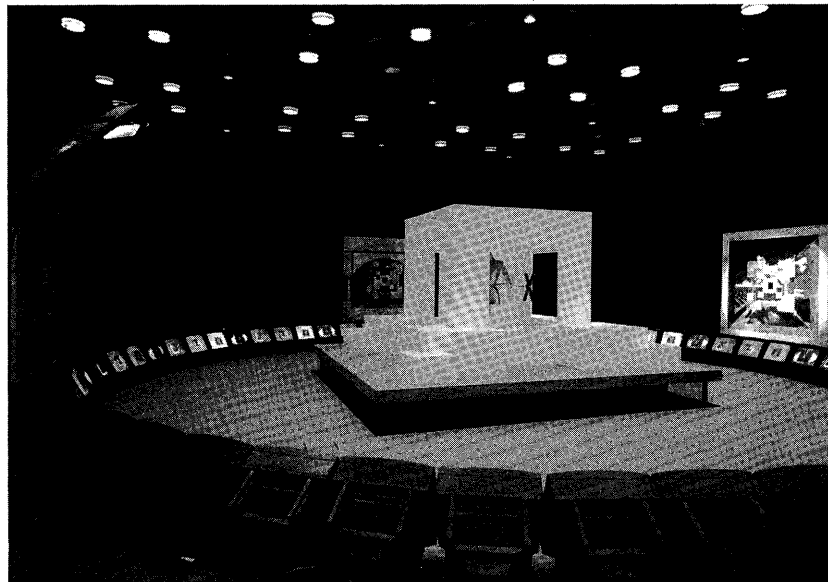
システムとしては、既成のシステムをカスタマイズして構築した。市販のパソコンとリレーショナルデータベースソフトを利用している。コレクション608点のうち半分が入力されている。データは、画像、タイトル、作者、技法、数値的データなど。貸し出しや修復履歴は、収蔵品点数が少なく、紙による管理で十分なので入力していない。もともと開館当初に購入する作品の候補を管理するものとして構築したため、収蔵品の管理は付随的であり、学芸員の利用は多くない。

2. 施設案内、催し物案内

広島市文化振興事業団が市内にあるアステールプラザにサーバーを置いて管理しているものと、館が独自で行っているものの2種類がある。

事業団が行っているシステムはいわゆるキャプテンシステム。

館独自のものは、ワークステーションを利用したもので、画像情報とその作品の解説などを表示するもの。館内に展示用の機器が3台設置され、受付に設置された機器にはプリンタも置かれている。入力用と展示用の機器はネットワークで結ばれている。10年前のシステムであることもあり、画像が表示されるまでに1分程度かかるためか利用者は少ない。更新時期が迫っているので新しいシステムを検討したが予算獲得ができなかった。担当者は「バーチャルミュージアム的なシステムの提案もあるが、美術館でこの種のシステムが必要かどうか疑問」と述べている。



■ミュージアムスタジオ